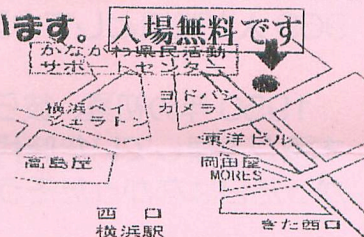


# 今しか聞けない！！

## 真実の戦争体験を聞こう

3月15、16日両日にわたって開催される市民活動フェア（場所：神奈川県民センター全館）の中で「中国帰還者連絡会」の方の戦争体験証言を聞く会を開催します。両日とも午前中はビデオで証言を紹介します。その他パネル展示も行っています。

どうぞ県民センター304へお立ち寄り下さい。



3月15日 10:30～ ビデオ上映 「泥にまみれた靴で」、他

13:30～ 証言：私の日中戦争の体験

証言者：絵鳩 毅さん (94才)



16日 10:30～ ビデオ上映 「泥にまみれた靴で」、他

13:00～ 証言：あなたは三光作戦を知っていますか

証言者：坂倉 清さん (87才)



聞き手：高柳美知子さん

<撫順の奇蹟を受け継ぐ会会場 県民センター304>

フェア開催時間帯(3月15日は10:00～16:00、16日は10:00～15:00)はパネル展示を行っています。

すでに、戦争体験者の方は少なくなっています。戦争体験した当事者から直接お話しを聞くことのできる機会はもうそんなにありません。この機会にぜひ戦争体験を聞いてください。

私たち「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」は、中国で苛酷な戦争体験を経て、戦後ソ連軍の捕虜として厳寒のシベリアに抑留されて、さらにその後も中国の撫順戦犯管理所に移されて、そこでの6年間で、自らが参加した戦争への心からの反省に至った経験などのお話しを紹介し、「中国帰還者連絡会」の精神を後世に伝えるために結成した会です。

(裏面をお読み下さい)

主催 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

<連絡先 松山英司 電話046-871-4263>

## 撫順の奇蹟とは

敗戦後、ソ連軍に武装解除されて60万人もの日本軍将兵たちが酷寒のシベリアへ連行の上に強制労働をさせられ、その内6万人が犠牲となった事実は広く知られています。しかし、敗戦から5年後まで残されていた一部の中から969人が戦犯として中国へ引き渡された事実はあまり知られていません。

1950年の初夏、彼らが到着したところは撫順戦犯管理所だった。かつて日本軍が占領していた時代の撫順監獄で、「抗日分子」への拷問で悲鳴の聞こえなかった日はなかったそうです。皮肉にもそのときの看守長も収容された。

「俺たちは戦犯ではない。」運命の暗転におびえ、自暴自棄になり、抵抗する日本人戦犯たち。戦争が終わってもう5年。「軍の命令に従っただけで、どうして俺たちが戦犯なんだ。」と・・・しかし、彼らの中の多くの者は戦争中、中国で捕虜や民衆を殺し、食糧を奪い、家々を焼き払い、毒ガスや生物兵器を用いて戦争犯罪を行っていた。

そんな彼らが戦犯管理所に来て驚いたのは、充実した設備に1日3度の食事、そして管理所職員による人道的な待遇でした。さらに自由な時間を与えられ、戦犯たちはそれまで経験したことのない生活を送ることとなります。

しかし、被害者の痛みを、この戦犯たちが心から理解できる日は来るのか 戦犯たちを収容し、管理した職員たちは、その誰もか日本軍によって家族を殺され、姉妹を犯され、自ら傷つき、抗日と革命に身を投じた者たちだった。

人道的な待遇と、人生で初めて与えられた、ありあまる時間のなか、やがて戦犯たちの心に変化が生じ始めました。暖かく接してくれる職員たち、彼ら中国の民衆に対して自分はどんなことをしていたのか。それから戦犯たちの、今に至る、“認罪の旅”が始まったのです。

やがて「あれを話せば死刑になる」という事実を認め、謝罪した。6年間を要した。中国の寛大政策によって認罪が認められた戦犯たちは、罪を許されて帰国した。すでに戦後12年が経過していた。少しずつ生活を取り戻した彼らは「中国帰還者連絡会」を結成し、今日まで「日中友好、反戦平和」と基調とした活動を展開してきました。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会は中国帰還者連絡会の精神と事業を受け継ぐために結成しました。